

学校感染症情報提供メモ

学籍番号	氏 名

(学籍番号、氏名は学生自身があらかじめ記入しておくこと)

本学では、学校感染症予防のため、罹患した学生には申し出ることを求めています。学生の中には、受診しても確実な情報を聞いてこないものが、年間、数名ではありますがいまして、判断に苦慮する場合があります。そこで、確実な情報を得るため、下記欄の該当する項目について○、あるいは記入して、情報提供をお願いいたします。

お手数をおかけしますが、よろしくお願いいたします。(名寄市立大学保健福祉センター)

医師記入欄 上記学生を下記のとおり診断しました。 該当項目に○、あるいは記入をお願いいたします。				
	疾患名	症状、検査より診断	症状より診断	確診ではないが可能性が高い
第1種	(病名: _____)			
第2種	インフルエンザ			
	百日咳			
	麻疹			
	流行性耳下腺炎			
	風疹			
	水痘			
	咽頭結膜熱			
	結核			
第3種	髄膜炎菌性髄膜炎			
	感染性胃腸炎、流行性嘔吐下痢症 (ノロウイルスなど)			
	マイコプラズマ感染症			
	溶連菌感染症			
	その他 (病名: _____)			

_____年 _____月 _____日

【学校感染症】

出席停止の基準

分類	病名	出席停止の基準
第1種	(※)	治癒するまで
第2種	インフルエンザ	発症後5日、かつ、解熱後2日(幼児3日)が経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで、または、5日間の適正な抗菌剤による治療が終了するまで
	麻疹(はしか)	解熱した後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日間を経過し、かつ、全身状態が良好となるまで
	風しん	発疹が消失するまで
	水痘(みずぼうそう)	すべての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱	主要症状が消失した後2日を経過するまで
	結核	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで
髄膜炎菌性髄膜炎	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
第3種	コレラ	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで
	細菌性赤痢	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで
	腸管出血性大腸菌感染症	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで
	腸チフス	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで
	パラチフス	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで
	流行性角結膜炎	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで
	急性出血性結膜炎	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで
	溶連菌感染症	適正な抗菌剤治療開始後24時間を経て全身状態が良ければ登校可能
	ウイルス性肝炎	A型・E型: 肝機能正常化後登校可能 B型・C型: 出席停止不要
	手足口病	発熱や喉頭・口腔の水疱・潰瘍を伴う急性期は出席停止、治癒期は全身状態が改善すれば登校可
	伝染性紅斑	発疹(リンゴ病)のみで全身状態が良ければ登校可能
	ヘルパンギーナ	発熱や喉頭・口腔の水疱・潰瘍を伴う急性期は出席停止、治癒期は全身状態が改善すれば登校可
	マイコプラズマ感染症	急性期は出席停止、全身状態が良ければ登校可能
	感染性胃腸炎 (流行性嘔吐下痢症)	下痢・嘔吐症状が軽快し、全身状態が改善されれば登校可能
	アタマジラミ	出席可能(タオル、櫛、ブラシの共用は避ける)
伝染性軟属腫(水いぼ)	出席可能(多発発疹者はプールでのビート板の共用は避ける)	
伝染性膿痂疹(とびひ)	出席可能(プール、入浴は避ける)	

※第1種学校感染症: エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ熱、ラッサ熱、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS)、急性灰白髄炎(ポリオ)、鳥インフルエンザ(H5N1)

詳細は http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1334054.htm を御覧ください。